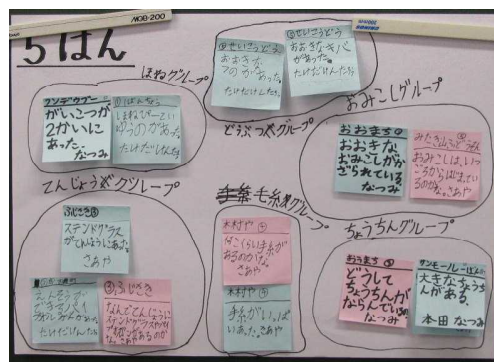


1 単元名及び単元の目標

どきどきわくわく まちたんけん（10/10本時）

- ◎ 身近な地域に出かけ、地域の人々と関わりをもち、さまざまな場所やものを調べたり、利用したりして、それらが自分たちの生活を支えていることや楽しくしていることが分かったとともに、地域に親しみをもち、人々と適切に接したり、安全に気をつけて生活することができる。



（資料1 付箋を仲間分けしたもの）

2 本研究授業の提案について

まち探検で見つけたことの伝え合いや集まった情報の仲間分けを通して、地域の様々な場所やものや人に気付く、地域に親しみを持たせるための手だてとして、以下の二つを提案した。

- (1) まち探検に行く前に自分の知っている地域の情報を付箋に書いて紹介し、その後地図に貼ることで情報の共有化と常に目に触れる環境作りを図った。地図の前で友達の書いたものを読んだり「これ見てみたい。」などと友達と話したりする姿が見られ、その後の学習の意欲につながることができた。また、たくさん集まった情報を基にまち探検に行く方面を五橋公園・朝市方面と一番町・中央通り方面に絞ることができた。以上のことから付箋を活用した情報の共有化と常に目に触れる環境作りは有効であった。
- (2) グループ活動では付箋に書いたことを伝え合い、集まった情報の共通点を考え仲間分けさせ、情報の比較や分類の初歩を体験させた。まず、伝え合う活動では付箋に書いたメモを見せながら話すことで、自信のない児童も話しやすくなった。また、聞く方も相手の付箋を見ながら聞くので自分の書いたことと比べやすく感想が言いやすくなった。次に、集まった情報の仲間分けの活動だがメモの内容を大きくとらえることが難しく、メモに共通する言葉がないと戸惑ってしまう姿が見られた。机間指導での助言やグループ内での試行錯誤でいろいろな仲間分けが出てきたが、だいぶ時間がかかってしまった。また、集まった情報に人を取り上げたものが少なく、人との関わりを意識させる手だてが足りなかった。探検に行くときに見てくるポイントをいくつか示すなどすれば、人との関わりも多くなり仲間分けもしやすくなったのではないかとと思われる。

3 本研究授業の授業技術課題について

- (1) 学習課題や指示・発問が分かりやすくなるようにシンプルな指示や発問を心がけたが、見つけたものが多岐にわたり仲間分けをする共通点を探し出すことが難しくなってしまった。そのため何度か言い換えて説明してしまい時間もかかってしまった。五橋方面の探検でまとめたものを例示しながら説明したり、仲間分けの例をいくつか示したりするなどの言葉だけではない工夫が必要だった。
- (2) 活動に集中しやすくするために場の工夫に取り組んだ。伝え合いは付箋のメモが見やすいようにグループごとに立って行い終わり次第座るようにしたことで、頭を寄せ合ってメモを見せたり終わりを意識できたりして、伝え合いに集中しやすくなった。仲間分けの発表のときには、机を下げて黒板の前に集まって座ることで発表者に近く付箋の文字も読める距離となり、発表に集中して聞くことができた。以上のことから伝え合いや発表時の場の工夫は効果的だったと考える。

4 次回の研究授業へ向けて

以上の点をふまえて、次回の研究授業では以下の点を意識した授業展開を考えたい。

- ・「自分と地域」や「地域の人との関わり」を深めるために、活動の視点を明確にする工夫。
- ・まち探検での気付きを交流させるために効果的な学習形態や場の工夫